

第二次瑞浪市環境基本計画(後期)施策進捗状況

資料1

基本目標	基本施策	具体的施策	数値説明	担当課	実績値					目標値 (令和5年度)	達成状況	進捗状況	
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度				
1 瑞浪市の 風土の基 盤である 里地・里 山や河川 等水辺の 維持・保 全を図り ます		地元の農畜産物を食べるように心がけている市民の割合 (市民アンケートによる調査結果)		農林課	72.8%	69.5%	55.7%	56.6%	54.1%	77.4%		農産物等直売所を拠点に地元の農畜産物のPRを実施しています。また、令和5年度には直売所隣接地にパーベキュー場を開設し、更なる地産地消の推進に努めます。	
	① 里山の保全 と活用	鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律に基づく被害防止計画を策定し、鳥獣被害対策実施隊による加害鳥獣の駆除を行います。	年間被害額	農林課	116.1万円/年	112万円/年	186万円/年	95万円/年	306.8万円/年	0円/年		令和元年度は豚熱(CSF)の影響でイノシシの個体数が減少していましたが、令和2年度は豚熱の鎮静化及び令和元年度の捕獲制限により個体数が増え、被害額が大幅に増加しています。今後は、防護柵等の補助及び捕獲強化を行い改善予定です。	
			被害防止計画 駆除頭数	農林課	700頭/年	681頭/年	686頭/年	98頭/年	125頭/年	700頭/年		従来実施している農作物被害防止等を目的とした有害鳥獣の捕獲に加えて、平成30年度に発生した豚熱(CSF)により、岐阜県が野生イノシシへの経口ワクチンの散布及びその効果確認のための調査捕獲を実施しています。そのため、瑞浪市の有害鳥獣捕獲数は減少していますが、岐阜県の調査捕獲と合計して、令和2年度は730頭捕獲しています。	
	② 食と生命を 支える農地 の保全と修 復	農産物等直売所出荷登録者数を増やします。	登録者数	農林課	189人	190人	196人	201人	197人	230人		J Aが実施する野菜づくり塾を通じて出荷者を募集しており、新規出荷者数は令和元年度から6人増加しました。一方、高齢化や転出等により出荷者数が10人減少しており、全体で4人の減少となっています。今後は、令和5年度にオープン予定であるパーベキュー場への出荷も含めて、野菜づくり塾等にて周知を図ります。	
			優良農地の現状を維持若しくは面積を増やします。	ほ場整備面積	農林課	389.0ha (累計)	395.24ha (累計)	400.00ha (累計)	402.43ha (累計)	407ha (累計)	406.5ha (累計)	◎	岐阜県が実施主体となり、鶴城ほ場整備が実施されており、令和2年度で目標面積の整備が完了しました。
	③ 地域の水循 環の保全と 修復	所有する森林に対する補助事業等を活用し、間伐等の整備を行います。	間伐面積	農林課	556.27 ha (累計)	672.08ha (累計)	779.78ha (累計)	916.88ha (累計)	967.88ha (累計)	800.00ha (累計)	◎	ぎふ森林環境税を活用した事業や、林業経営者による間伐が行われており、目標を達成しました。	
			ため池整備事業を活用した農業用ため池の整備を行うとともに、災害防止のため、利用のなくなったため池の廃止を行います。	整備及び廃止件数	農林課	廃止措置 未実施	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所	未利用ため池の調査結果に基づき令和元年度以降順次廃止		令和3年度に農業用水として利用実態のないため池3箇所を廃止予定です。
	④ 多様な動植 物の生息・ 生育環境の 保全と創出	生物多様性の保全のため、特定外来生物の調査や駆除を行います。	オオキンケイギク 駆除重量	環境課	90kg/年 ※乾燥後の重量 になります	190kg/年 ※乾燥後の重量 になります	970kg/年 ※乾燥前の重量 になります	1,290kg/年 ※乾燥前の重量に なります	3,920kg/年 ※乾燥前の重量に なります	1,500kg/年 ※乾燥前の重量に なります	◎	令和2年度、3年度は、新型コロナウイルスの影響により土岐川河川清掃が中止となったため、5~6月にかけて職員及びボランティアによる抜根作業を実施しました。今後も土岐川河川清掃時に啓発等を行い、駆除拡大を図ります。	
	2 市民一人 ひとりが 環境に配 慮し行動 することで、 生活の質 の向上に つなげま す		ごみの4R活動に取り組んでいる市民の割合 (市民アンケートによる調査結果)		環境課	76.4%	77.6%	68.6%	72.5%	79.9%	81.0%		平成28年度と比較して、3.5%増加しています。引き続き広報等で廃棄物減量の周知を図ります。
			省エネルギー・新エネルギーへの取組みをしている市民の割合 (市民アンケートによる調査結果)		環境課	50.0%	51.2%	49.0%	47.8%	49.7%	59.1%		令和元年度から蓄電システム、次世代自動車用充電システム(V2H)等に補助金を交付しています。引き続き広報や環境フェア等で周知を行い、普及を推進していきます。
		水洗化推進により、市内の川、身近な水路がきれいになったと感じている市民の割合 (市民アンケートによる調査結果)		上下水道課	63.5%	64.8%	71.4%	65.3%	67.6%	66.3%	◎	検針の際に下水道の接続や合併処理浄化槽の転換を依頼する文書を配布していることに加え、広報で呼びかけをしています。また、合併処理浄化槽の設置に対する補助金を国・県の補助基準額に上乗せすることで水洗化を促進しています。	
① 循環型社会 づくりの推 進		資源ごみリサイクル率の向上に努めます。	リサイクル率	クリーンセンター	21.2%	20.8%	20.5%	19.6%	20.1%	26.0%		平成28年度と比較して、1.1%減少しました。しかし、数値の把握が困難なスーパーやドラッグストア等でのリサイクルも普及しており、市民全体のリサイクル意識は向上していると考えています。また、令和2、3年度は新型コロナウイルスの影響による集団資源回収の中止といったマイナス面もありましたが、今後も引き続き、ごみ資源分別アプリなどの周知強化及びごみ分別出張講座の開催等により、市民のリサイクル意識向上に努めます。	
			可燃ごみ・不燃ごみ処理量の削減を進めます。	焼却量	クリーンセンター	10,499t/年	10,350t/年	10,446t/年	10,460t/年	10,271t/年	10,000t/年以下		平成28年度と比較して、2.2%減少しました。令和2年度は、事業持込と個人持込の量が増加しましたが、許可業者の持込量(事業系ごみ)が減少しています。許可事業者の持込量が減少した主な要因は、新型コロナウイルスによる経済活動の縮小によって、廃棄物の発生が減少したためであると考えられます。令和4年度からは、生活系一般廃棄物のごみ処理手数料の改定の実施し、可燃ごみ処理量の削減を進め目標達成を図ります。
				埋立量	クリーンセンター	2,185t/年	2,486t/年	2,296t/年	2,506t/年	2,918t/年	2,000t/年以下		平成28年度と比較して、34%増加しました。埋立量増加の主な要因は、新型コロナウイルスの影響により自宅で過ごす人が増え、片付けごみが増加したことが影響していると考えられます。令和4年度からは、不燃の産業廃棄物について総量規制を実施し、埋立量の減少を見込んでいます。
			使用済小型家電回収品目の拡充をします。	回収品目	クリーンセンター	15品目	22品目	22品目	23品目	23品目	23品目	◎	令和元年度に、目標値である23品目を達成しています。
② エネルギー 循環の効率 化		公共施設におけるCO2削減に努めます。	削減率	環境課	△3.9% (平成25年度比)	+2.2% (平成25年度比)	△2.0% (平成25年度比)	△17.1% (平成25年度比)	△23.6% (平成25年度比)	△10.0% (平成25年度比)	◎	これまでに、クリーンセンター等の高圧電力を使用する施設における電力会社の見直しにより、電力使用に伴う二酸化炭素排出量が大幅に減少しています。また、スーパーエコスクールに認証された瑞浪北中学校が令和元年度にゼロエネルギー化を達成するなど、脱炭素化に向けた取組が行われています。	
③ 水質浄化対 策の推進		水洗化率の向上に努めます。	水洗化率	上下水道課	81.24%	82.20%	82.70%	83.00%	83.10%	90.00%		検針の際に下水道の接続や合併処理浄化槽の転換を依頼する文書を配布していることに加え、広報で呼びかけをしています。また、合併処理浄化槽の設置に対する補助金を国・県の補助基準額に上乗せすることで水洗化を促進しています。	
④ 健全な生活 環境の保全 対策の推進		空き家・空き地バンクが活用されるよう努めます。	成約件数	市民協働課	29件(累計)	38件(累計)	41件(累計)	45件(累計)	50件(累計)	100件(累計)		空き家・空き地バンクにおける登録空き家物件の魅力向上ため、登録された空き家の所有者や登録を希望する所有者等を対象に、空き家財道具等処分費補助金を制定しました。また、協力不動産事業者との連携を強化し、空き家・空き地バンク登録物件数の増加を図ります。	

第二次瑞浪市環境基本計画(後期)施策進捗状況

資料1

基本目標	基本施策	具体的施策	数値説明	担当課	実績値					目標値 (令和5年度)	達成状況	進捗状況
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度			
3 瑞浪市らしい、風土を活かし人とのふれあいができる文化環境を創出します		自分のまちに誇りをもてる、魅力のあるまちなみだと感じる市民の割合 (市民アンケートによる調査結果)		都市計画課	45.4%	45.3%	43.7%	49.9%	46.8%	53.7%		公共施設里親制度を積極的に活用してもらい、市民と共に都市公園の環境保全および維持管理に努めています。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響や利用者の高齢化により、活動を自粛する団体や活動回数を減らさざるを得ない団体もあり、団体間で活動に対する温度差が生じています。今後も登録団体と連携し、若い世代の利用者数の増加を図り、継続した保全活動の実施に努めます。
	② 瑞浪市らしい地域資源の保全と活用	中山道(大湫宿含む)に関する観光に取組みます。	ボランティアガイド利用者数	商工課	1,131人/年	2,059人/年	1,954人/年	1,597人/年	156人	4,500人/年		令和元年度と比較して、90.2%減少しました。新型コロナウイルスの影響により、令和2年度末から令和3年9月までの間、ガイドの受付を停止していたことが原因です。今後も感染症対策を十分に行い、利用者数の回復を図ります。
		市内の指定文化財の指定件数の増加に努めます。	指定件数	スポーツ文化課	106件(累計)	107件(累計)	108件(累計)	106件(累計)	105件(累計)	120件(累計)		令和2年度は、無形文化財(工芸技術)「粉引」の保有者が無くなったことにより、1件減少しています。なお、令和3年度は「大湫神明白山神社例祭・山車」行事が民俗文化財(無形)に指定されており、引き続き市内の文化財の調査を行っていきます。
③ 愛着のあるふるさとづくりの推進		文化施設・歴史案内等ボランティアによる講座等の開催により、市民が地域の歴史・文化と親しむ機会の創出に努めます。	ボランティアガイド登録者数	商工課	29人	22人	21人	20人	24人	65人		ボランティアガイド登録数に大きな変動はありませんでした。引き続き、事務局(地域交流センターときわ)及びかたりべの会(スポーツ文化課)と連携し、情報提供を行う等ボランティアガイドの募集を継続します。
4 市民の誰もが参加でき、継続性のある計画の推進体制を実現します。	① 行政と市民との協働体制の整備	里親制度による、公共施設の美化、保全活動を行う市民活動団体に対する支援を行います。	都市公園登録団体	都市計画課	18団体	17団体	19団体	18団体	22団体	23団体		令和2年度は、新たに4団体の里親登録がありました。但し、実情としては、新型コロナウイルス感染症の影響により活動を自粛する団体や、高齢化を理由に活動回数を減らさざるを得ない団体もありました。
			市道登録路線	土木課	131路線	124路線	156路線	166路線	169路線	132路線	◎	令和2年度は、高齢化による辞退と新規登録数が同じであり、登録団体数に変化はありませんでした。なお、活動箇所を増やした団体があるため、登録路線数は昨年度より増加しています。
	② 環境教育・体験学習の推進	環境学習の機会創出に努めます。	環境学習実施回数	環境課	10回/年	9回/年	8回/年	11回/年	1回	13回/年		新型コロナウイルス感染症の影響により、回数が大幅に減少しています。感染症の動向を踏まえ、出前講座の実施回数増加を図ります。
		環境フェアみずなみを開催することで、市民の環境意識の向上に努めます。	入場者数	環境課	600人/回	700人/回	550人/回	1,000人/回	—	1,600人/回		令和2~3年度は、新型コロナウイルスの影響により、開催を中止しました。今後は、今年度実施を予定していたRe-食器の展示をはじめ、SDGsの視点を取り入れた環境フェアの開催に努めます。
	自然観察会を開催します。	開催件数	スポーツ文化課	9回/年	9回/年	3回/年	6回/年	13回/年	10回/年	◎	自然観察を兼ねたウォーキングや学校への出前講座を実施し、目標を達成しています。今後も開催を継続します。	
③ 事業所の環境保全意識の向上		事業所に起因する悪臭や水質汚濁等の苦情に対し、原因及び対策に対する啓発と指導を継続していきます。	苦情件数	環境課	2件/年	6件/年	2件/年	3件/年	3件	0件/年		基準を超過していない場合でも相談を受けますが、原因者が特定できる場合は協力を依頼しています。なお、令和2年度に環境基準を超過した事業所はありません。